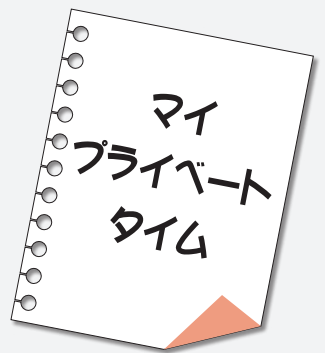


# 自然豊かな大空のまち

みさわ 三沢市長(青森県) たねいち かずまさ 種市一正  
*Kazumasa Taneichi*



## 大空のまち三沢

三沢市は青森県の南東部に位置し、東は太平洋、西は小川原湖に臨んでいる平坦地で、ラムサール条約に登録された<sup>ほしけぬま</sup> 仏沼をはじめとする豊かな自然に恵まれています。夏には冷涼で湿った風が吹く「やませ」の影響を強く受けますが、農業ではその「やませ」を利用してニンニク・ゴボウ・長芋を栽培し、地域の特色を生かしています。冷害をもたらす「やませ」ですが、本市ではそれを利用して特産品を育てています。漁業



海岸の防砂林を背景にミス・ビードル号の模型と筆者

では、冬の味覚であるホッキ貝や、「赤とんぼ」のブランド名で売り出している昼イカなど、海の幸にも恵まれております。私も時間があるときは漁港へ行き、水揚げされている魚を見ています。

そんな本市は、大空のまちとして知られています。昭和6年に世界初の太平洋無着陸横断飛行を成し遂げた「ミス・ビードル号」の出発地であり、多くの飛行機乗りが太平洋の向こうにあるアメリカ大陸を目指していたのは、今から80年以上も前のことです。現在では米軍と航空自衛隊、そして

民間の航空機が同じ飛行場から大空へと飛び立っています。毎年開催されている三沢基地航空祭では、三沢の空を華麗に飛び回る飛行機をみるために、県内外から多くの方が来場しています。また、米軍基地が存在するため、異国情緒漂う国際色豊かなまちとして発展しており、アメリカンデーやハロウィンフェスタなどの本市ならではのイベントも行われております。

そんな自然豊かな大空のまち三沢では、妻と長女夫婦の4人で暮らしています。日課は毎朝健康を兼ねての、自分の田んぼを見ながら散歩をすることです。散歩だけでなく、何事も続けることが大切であると感じています。



毎年多くの来場者でにぎわう三沢基地航空祭

## 私と木

私の趣味は、大きな木や古木を眺めることです。時間があるときは、山へ足を運んでさまざまな木をゆっくりと眺めています。木を眺めていると、気持ちが落ち着くだけでなく、自然のたくましさを感じ、人工のものとは違った趣に心を奪われます。最初はヒバの木に感動していましたが、今はスギの木に興味を持ちながら眺めています。そして、木の立ち姿や年輪を見て、そこからたくさんのお話をイメージしています。例えばですが、「この木はこれまでど



木を眺める筆者

んな歴史を歩んできたのだろうか：」「どんな世の中を見てきたのだろうか：」「この木を磨きあげたら、どんな木目が姿を現すのだろうか：」「などというように、何百年もの間、過ごしてきた年月や歴史をイメージすることで、木が持つ懐の深さを感じています。何百年も成長するという木の偉大さに感銘を受け、明日への元気をもらっています。

木などの自然を大切にすることで、われわれはさまざまな恩恵を受け取っていると思います。山に木々が生い茂ることで土を豊かにしてくれます。そして、雨水が川となり、山の栄養分を海へと届けてくれるのです。栄養が豊富な海では、海藻が育ち、魚や貝も成長していきます。私たちは豊かな自然から、多くの恵みを与えてもらいながら生活しているのです。

また、木には恵みをもたらすだけでなく、私たちの生活を守る役割もあります。山の木々は雨水を貯め込む天然のダムとして機能し、洪水を防いでくれます。もちろん、山の木だけではなく、防災林として海岸に植えられている砂防林も、東日本大震災の際には私たちを守ってくれました。

私は元々が農家でありますので、自然のもたらす恵みの大切さはよく知っているつもりです。木を眺めるのは私にとって、単なる趣味としてだけではなく、自然を大切にすればそれが恵みとして返ってくるということを改めて実感させてくれるものでもあります。今ある自然を次代の方々へ引き継ぐことが、私たちに課せられた使命であると感じています。

あまりに私が自然を大切にしているのでも、今では家内も感化されて、自然や木に興味を持つようになりました。家庭菜園では、毎年いろいろな野菜や果物を作っています。非常に熱心なため、そこに私

が手伝うすきは全くなく、食べるのが専門となつています。妻が育ててくれる自然の恵みにも感謝しております。

### 独掌鳴らす

そんな私の座右の銘は、「独掌鳴らす」であります。意味は、掌は両手を合わせなければ鳴らないことから、人は一人では何もできず、人と人がお互いに助け合うことで事を成せるということです。

行政に置き換えると、自分が右手なら職員が左手、市役所が右手なら市民が左手かもしれない。お互いに合意と納得を得て進むことで魅力あるまちづくりが実現できると信じております。そういった思いがこの「独掌鳴らす」に込められています。この思いは、市長になって10年目を迎えた今も全く変わっておりません。私が市長に就任したとき、本市の良さを再認識し、可能性を追求していくべきだと感じました。農産物や海産物をどんどんとブランド化して、定着させていく舵取りをするのが自分の役割であります。

私の苗字は種市(タネイチ)ですが、三沢市の発展のために幸せのタネを蒔き、

・苗木を大事に育てる「人づくり」

・その樹が大地に根を張る「まちづくり」

・葉を茂らせて人々を守る「やすらぎ」

に向かって、大きな三沢の樹を育てるよう今後も努力して参ります。